

平成27年度評価結果及び対応状況一覧

調書番号	公共施設名 担当課	外部評価 (アドバイザー評価)		H27評価結果 (2次評価(施設所管部再評価))		評価に対する対応状況	
		評価者	評価区分	見直し 必要性	説明	見直しの方向	説明
21	産業技術短期大 学校 産業人材課	小口	要改善	有	<p>定員確保対策として、知名度向上のためのPRを強化(各種学校説明会に参加等)するとともに、工業系高校との連携のみならず、普通高校の教師にも本校の特徴をアピール(普通高校との情報交換会の実施等)し、定員充足に努めている。</p> <p>また、県内企業との連携を更に活発化(企業訪問、学生と企業経営者との交流会の開催等)し、企業ニーズに合った人材育成を進めるなど、産短大の魅力アップを図り定員確保につなげていく。更に、教育振興会などの企業に本校を積極的にPRし、学生募集に協力を依頼していく。</p> <p>在職者訓練についても、受講者ニーズ等を勘案した不断の見直しを行う。</p> <p>更に、来年度策定予定の「第10次山梨県職業能力開発計画」において、県内企業や高校の生徒・保護者に対する意識調査などを通じて、社会的需要や定員充足の見込み等を捉える中で、産短大の在り方も計画に反映することとし、必要に応じて訓練内容や規模の見直しを行うなど、引き続き県内企業が求める実践技術者の育成に努めていく。</p>	実施方法等の変更	<p>高校の教師に産短大の魅力を伝え、学生確保につなげるため、工業系高校のみならず、普通高校との情報交換会を更に強化する。</p> <p>学生の意見を取り入れながら、現在の人員体制を活かし、指導員、職員が一丸となって広報活動を実施する。</p> <p>在職者訓練においても、定員充足率を高めるため、受講者ニーズ等を反映したコース設定をする。</p> <p>また、効率的な学校運営を進めるため、訓練用備品の長期的な整備計画によるリースから購入への切り替え、ソフトウェアの調達方法の工夫など、経費の削減に努める。</p> <p>更に、来年度策定予定の「第10次山梨県職業能力開発計画」において、県内企業や高校の生徒・保護者に対する意識調査などを通じて、社会的需要や定員充足の見込み等を捉える中で、産短大の在り方も計画に反映することとし、必要に応じて訓練内容や規模の見直しを行う。</p>
		五味	要改善				
		諸平	要改善				
22	図書館 社会教育課	小口	要改善	有	<p>読書習慣の定着に向けては、蔵書を充実させるとともに、図書館で開催されるイベント等と連携して関連する本を紹介するなど情報提供を積極的に行い、また、幅広い読書ニーズへ対応するため、市町村や学校の図書館を巡回し相互貸出等の連携を更に強化する。</p> <p>図書館の業務のうち、図書の貸し出しなどカウンター業務については、利用者から職員の常駐を求められていることから、利用しやすい環境に配慮しつつ季節や曜日、時間帯による業務量の変動に対応できる配置を検討していく。</p> <p>なお、カウンター業務のほかに、講座の開催やシステムの運営管理、資料のデジタル化などのバックヤード業務があり、電子書籍やインターネット予約などの新しいサービスへの対応も必要となることから、全体として取り組むべき業務及び望ましい人員配置について、今後1年かけて検証していく。</p> <p>交流エリアの利用料金については、図書館という公共施設としての性格から、利益を上げることが目的としての料金設定はできないと考えている。なお、交流エリアなどの会議室の利用料金は、施設の運営に係る維持管理費、人件費について、受益者に負担していただくこととして、その経費の全てを反映している。</p>	実施方法等の変更	<p>読書習慣の定着に向けて蔵書を充実させるとともに、図書館で開催されるイベント等と連携して関連する本を紹介するなど情報提供を積極的に行い、また、幅広い読書ニーズへ対応するため、市町村や学校の図書館を巡回し相互貸出等の連携を更に強化する。</p> <p>また、図書館の業務のうち、カウンター業務について、季節や曜日、時間帯による業務量の変動に対応できる職員の配置を検討していくとともに、バックヤード業務や新しいサービスへの対応等を鑑み、全体として取り組むべき業務及び望ましい人員配置について検証する。</p>
		五味	要改善				
		諸平	要改善				